**2018年度しおあなの森保育園事業報告**

堺中央共生会しおあなの森保育園が設立して7年目が終了した。3月に園長、副園長が定年退職を迎え、新園長のもと、これまで以上に職員一同力を合わせて、子ども、保護者、地域の方から喜ばれる保育園を目指して保育をすすめてきた。今年度は37名が入園し、計165名でスタートした。また33名の子どもたちが、しおあなの森保育園で過ごした経験を胸にそれぞれの小学校へと巣立っていった。

**1．保育について**

保育所保育指針の改定に伴い、今年度は幼児主担・乳児主担を中心に「全体的な計画」の見直しを行ってきた。しおあなの森保育園の子どもたちに、より則した計画を職員全体で作り、保育理念、保育方針を基に各年齢の保育目標の見直しをし、年間計画に反映させることができた。今後も職員一人一人が「全体的な計画を」十分に理解し各クラスの保育の計画を作り、課題を明らかにして保育の質の向上につなげたい。

　0歳児は今年度、大人との信頼関係をつくること、欲求や甘えを受け止めてもらい、安心して過ごせるように心がけてきた。発達に合わせておもちゃを入れ替え、好奇心を刺激し、手先の発達を促す手作りおもちゃも取り入れた。1歳児はままごとコーナーの充実、並行あそびが楽しめるよう、おもちゃの数も少しずつそろえてきた。2歳児は毎日の繰り返しの生活を大切にし、自分でできることをじっくり時間をかけて取り組んできた。菜園で野菜や花を育てて、自分たちで育てた野菜を食べる経験をした。3歳児は友だちとのかかわりが増えて、その分トラブルになることも多くなる年齢だが、その都度、お互いの思いを言葉で伝えあえるよう仲立ちしてきた。昔ながらの集団遊びを取り入れ、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを十分に経験した一年だった。4歳児は見通しを持って生活することを目標に、自分で考えて行動する機会を大切にし、友達同士助け合う姿が出てきた。5歳児は世代間交流や、小学校との交流、二園交流と保育園外との交流や行事に参加したり、デイキャンプでは地域の布袋湯（銭湯）を利用させていただいたりと、友だちと一緒に経験を広げてきた。

今年度の苦情件数は７件で、保育士の対応が４件、子ども同士のトラブルが２件、保育園でのけがについてが1件あり、保護者と園長、関係職員で話し合い解決することができた。今後も苦情や意見を言いやすい環境や人間関係を大切にし、保護者に満足していただける園を目指していきたい。

**２．延長保育の利用について**

今年度は616件で昨年度に比べ72件増加した。19時を超えての延長保育を利用する家庭もあり、ニーズは今

後も受け止めていきたい。

**３．一時預かり**

　利用件数は10件であった。今後も様々な事情により、一時預かりを利用される家庭が増えると思われるので、

ニーズに応えて受け入れていきたい。

**４．子育て支援**

毎月2回実施している園庭開放では年間通じて273名が参加された。季節感を大切にその時期に親子で遊べる「こいのぼり制作」などのとりくみや、管理栄養士と共に親子クッキングを2回実施し、好評であった。

**５．交流保育について**

　今年も多くの小学生が休校時や放課後に来園して遊んでくれた。新湊小学校の「わくわく交流会」に参加し、小学校への期待を持てた子どもたちが多くいた。愛らいふに行き、異世代と触れ合い喜んでもらえる体験ができた。高校生の夢体験実習や、ボランティアの受け入れ、小学生、中学生の体験学習等で、子どもたちがいろいろな方と関わる機会になった。職員も外部の方に来ていただき、保育園の役割や子どもたちの姿を伝えることで、自身の職種にさらに誇りをもって保育をしていく力になった。

**７．研修について**

今年度は、幼児保育・乳児保育・保健衛生・アレルギー・リスクマネジメント・保育環境・子育て支援・障がい児・食育・マネジメントにわかれ、経験年数等に応じて各担当をし、園内研修をした。園外では、「救命救急「教育・保育の向上」「家庭支援」「小学校との連携」「リスクマネジメント」「虐待事案について」等の研修に参加したほか、各職員は保育に関する自主研修に参加して、自身の研鑽を深めた。「寝た子はネットで起こされる？」「多様性を認め合う教育・保育の方法と保護者支援について」の人権研修にも参加した。今後も研修等を通して人間性を高め、保育の質を向上させていきたい。